

# 大雨に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成25年 6 月 18 日 11 時 20 分、「大雨に関する福島県気象情報 第 1 号」（福島地方気象台）」が発表されました。

（見出し）

福島県では、低気圧や梅雨前線の影響により、19日朝から会津を中心に激しい雨が降り大雨となる所がある見込みです。低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意して下さい。

（本文）

【気象状況】

18日は日本海に梅雨前線がのび、19日は梅雨前線上の低気圧が日本海から三陸沖に進む見込みです。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、19日にかけて前線の活動が活発になる見込みです。

【雨】

<地域・時期・量的予想>

福島県は、19日にかけて断続的に雨が降る見込みです。19日は朝から昼過ぎにかけて、1時間に40ミリの激しい雨が降り、会津を中心に大雨になる所がある見込みです。

18日12時から19日12時までの24時間雨量は

会津、中通り	100ミリ
浜通り	60ミリ

です。

なお、雨はその後も降り続くため、総雨量は更に多くなる見込みです。

<防災事項>

低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意して下さい。

【補足事項】

今後、気象台の発表する警報や注意報、気象情報に留意して下さい。  
次の「大雨に関する福島県気象情報」は、18日16時30分頃発表する予定です。

## 1 水 稲

### （1）事前対策

- ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除き冠水しないようにしましょう。
- イ 水路が増水している場合は、危険ですので近づかないで下さい。

### （2）事後対策

- ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く葉先を出すよう努めましょう。
- イ 浸水・冠水した水稲は耐干性が低下しているため、水田を急に干すことは避け、間断かん水に努めましょう。
- ウ 冠水時間が長くなると黄化萎縮病が発生しやすくなりますので、速やかな排水に努めましょう。また、被害程度が大きくなると思われる場合は、速やかに防除を実施しましょう（使用薬剤の収穫前使用日数に注意）。

### (3) その他参考事項

冠水により土壌が流入（流入土壌の堆積深が5 cm）している場合、次年度の基肥チッソ量を2 kg/10 a 程度減肥する必要があります。

## 2 大豆

### (1) 事前対策

ア 速やかにほ場排水ができるよう明きよ、暗きよ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。

イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

### (2) 事後対策

表面水や明きよの滞水は早急にはほ場外に排水しましょう。

## 3 そば

### (1) 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

### (2) 事後対策

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょう。

## 4 野菜・花き

### (1) 事前対策

#### 共通

ア ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害が発生しやすい場所では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

イ パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

ウ 施設では、天窓や扉があおられたり風雨が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

エ は種や定植を予定しているものは、天候回復後に実施しましょう。

### (2) 事後対策

#### 共通

(ア) 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょう。

(イ) 冠水した場合は、ほ場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は、出入りを極力避けましょう。

#### イ 野菜

(ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復しましょう。

(イ) 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。

(ウ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、直ちに適切な薬剤散布を行いましょ。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょ。

#### ウ 花 き

(ア) キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょ。

(イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

## 5 果 樹

### (1) 事前対策

ア 水が停滞しやすい園ではあらかじめ明きょ等の排水溝や暗きょを整備しましょ。

イ 草生栽培により、土壌の流亡を防止しましょ。

ウ 水害による樹体への影響は、樹勢によっても異なるので、適正な樹勢の維持を心がけましょ。

エ ももせん孔細菌病は、降雨により病原菌の分散が助長されるので、昨年多発した地域では、効果のある薬剤を降雨前に散布するよう心がけましょ。

### (2) 事後対策

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招きますので速やかに対策を実施してください。

ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょ。

イ 土砂が流入した園では、根の呼吸を助けるため、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除きましょ。

ウ 枝葉や果実などに泥が付着した場合はできるだけ早く洗い落とし、病害の発生を防ぐため適切に薬剤散布を実施しましょ。なお、定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施してください。

エ 農道などに土砂が堆積した場合は、作業の妨げになるので速やかに除去しましょ。

## 6 畜産・飼料作物

### (1) 事前対策

ア 風雨の吹き込みを未然に防止するため、畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょ。

イ 特に、開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。

ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょ。

エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。

オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

## (2) 事後対策

ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。

イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。

ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024 (521) 7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：[http://www.ems.pref.fukushima.jp/bcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=22752#gi\\_jyutsujyohou](http://www.ems.pref.fukushima.jp/bcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsujyohou)

モバイル版 QRコード

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング  
情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>

